



第一部 センター運営



八王子市長
八王子市
シルバー人材センター
名誉会長

初宿 和夫

しやけ かずお

曰く「より、広報はちおうじ」の配布や放課後子ども教室での安全管理業務など、八王子市が実施する多岐に亘る事業について、御協力いただき感謝申し上げます。

厚生労働省から6月5日に発表された東京都の『合計特殊出生率』は、0.99と、初めて1を割り込み、少子化が急速に進行しています。八王子市では、子育て世帯への支援強化の取組として、大横保健福祉センター内に子ども家庭支援センターを移転させる計画ですが、これに伴い、皆様には、横山事務所への事務室移転準備を進めていただいていることに対し、重ねて感謝申し上げます。

横山事務所には、ボランティアセンターにも移転していただきまますので、皆様との一体的な活動による相乗効果で、高齢者就業とボランティア活動が活発化することを期待しています。

また、会員の皆様の交通便利性向上を図るため、御要望いただいていた駅周辺へのサテライト施設の設置につきましても、現在検討中です。駅前という好立地での活動により、既存会員の利便性向上に加え、新規会員獲得のための説明会や

民間企業への受注開拓のための営業活動がしやすくなるなど、シルバー人材センターの経営面への効果も期待しています。

2025年(令和7年)には、団塊の世代が後期高齢期に入ります。さらに単身世帯の増加、ライフスタイルの多様な社会構造の変化により、生活課題が複雑化・複合化し、単一の福祉サービスだけでは解決が難しくなっています。福祉、介護、医療に関わる人材不足も深刻であり、本市では2040年までに介護人材が約2000人不足すると試算しています。

こうした課題に対応していくために、本年3月、八王子市では新たな「八王子市高齢者計画・第9期介護保険事業計画」を策定し、「誰もが安心と希望をもって歳を重ねられる、未来につながるまち」を基本理念に掲げ施策を推進しています。

皆様のようにいつまでも若々しく過ごされるためには、生きがいを持つことが大変重要です。シルバー人材センターの活動は、経験や能力を生かした就業を通して、高齢者の社会参加の促進や生きがいづくりに貢献されています。

計画で掲げる様々な施策を着実に推進していくために、引き続き八王子市シルバー人材センター及び会員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。



八王子市
シルバー人材センター
会長 園部 正範

会員の皆様、日頃は就業・ボランティア活動にご協力頂きありがとうございます。ありがとうございます。

昨年度は緊縮財政の下、職員の皆様は協力頂き千五百万円程の黒字決算となりました。ありがとうございます。しかし、顧問公認会計士の方によれば毎月支払額の2倍程度の手元資金を持つことが安定経営に繋がることの指導があり、引き続き黒字決算を続けていく必要があります。

現在、総務委員会を中心に年会費の「自動引落し」を検討しております。会費収納事務費の削減と会員の皆様の手数の軽減にもなります。自動引落しの書類を会員の皆様に提出して頂く必要があります。ご協力の程よろしくお願ひします。勿論、これまで通りのコンビニ経由の方法でも構いません。

昨年度、就業中の事故は傷害事故19件、賠償事故8件と相変わらず多発しています。自転車・車によるものが増えており、自転車利用時はヘルメットの着用

をお願いします。また、歩行中に自転車等にぶつかる事故も起きています。就業後に帰宅する際に起きる事故が多くなっています。事故で骨折に繋がると本人はもとより周りの人にも迷惑を掛けることとなりますので充分ご注意ください。

昨年度、市役所から現在事務所のある大横保健福祉センターの建物に「子ども家庭支援センター」を設置するために移転を要請されています。「子ども家庭支援センター」は保健センターと併設することが条件で、そのための移転要請です。なかなか難題ですが、移転プロジェクトチームを設立していろいろな角度から条件を検討しています。できるだけ良い解決ができるよう熟慮検討していきます。

この1年、会員一人一人の皆様が楽しいシルバーライフが送れますよう祈念いたします。



八王子市
シルバー人材センター
常務理事 大西 健一

定時社員総会で理事として、総会後の臨時理事会で常務理事として、ご選任をいただきました。

全力を挙げてセンター運営に携わってまいります。よろしくお願ひいたします。

第14回定時社員総会は、例年利用している「いちちょうホール」が大規模改修で使用できない中、座席数の少ない「学園都市センター・イベントホール」を会場といたしました。皆様のご協力を得て、市長・市議会議長のご臨席のもと、無事開催することができました。

総会終了後は八王子警察署生活安全課のご担当者から、「オレオレ詐欺」、「架空請求詐欺」の講話をいただき、会員の皆様に有益な情報を提供できたと考えております。

総会でも報告させていただきましたが、令和4年度末で八王子市との大型契約である「学校管理業務」の受注が終了し、令和5年度は大変厳しいスタートとなりました。しかし、清掃職場の新規契約の増を中心に請負事業が順調に実績を伸ばし、派遣事業についても新たに中規模の契約を締結することができました。さらに、センター一丸となって経費削減に取り組んだことにより、黒字決算となりました。会員の皆様のご協力による結果であり、

深くお礼申し上げます。

令和6年度は、大横保健福祉センターからの移転など大きな課題がありますが、新たな受注の獲得やセンター運営の効率化に取り組み、高齢者の皆様の「健康で生きがいのある生活」の実現に寄与していけるよう努めてまいります。

よろしくお願ひいたします。

新理事挨拶



西南部地区
佐々木 民治

私はシルバー人材センターの会員になって十数年になります。このたび事情があつて理事という立場になりました。現在、私は除草班と広報配布班に設立当初から所属し就業しています。

高齢者組織であり、自主・自立・共働・共助を理念とする組織であることを念頭に、これまでの会員生活を顧みながら微力ではありますが会員の皆様の活動に何らかのお役に立てるならば、と思っております。



第14回定時社員総会後に
新理事会メンバーで写真撮影



左上から金丸理事、三浦理事、黒田理事、野間理事、中村理事、井田理事、富山理事、行田監事、杉浦理事
左下から岩澤理事、佐々木理事、馬場副会長、園部会長、大西常務理事、立花理事、浅原理事、中島監事

常任委員会

総務委員会

委員長 浅原 ユリ子

時代の変化がシルバーに押し寄せて来ています。令和5年10月のインボイスは依頼主の2%の上乗せで対応しましたが、フリーランス新法の施行に伴いデジタル化がいよいよ令和6年10月、シルバーに迫って来ました。

コロナ禍の減収や大型失注もありましたが経費削減をしながら令和5年度を乗り切りました。令和6年度も経費節約の運営になります。今後は smile to smile を利用した会員条件明示が必要となりますので、パスワードを取得して効率的情報をお届けするようになります(取得者5555名/2800名)。また、事務所移転の大きな問題に向き合う事になり会員の皆様になるべく負担なく移転が出来るようプロジェクトチームを立ち上げ解決筋道を検討して行きます。今年度も

- ① 財務状況の把握
- ② 増収施策の創出
- ③ 会員の資質向上に向けた各種研修会(1年目研修・3年目研修・職種研修)
- ④ 費用弁償は会計法上説明根拠

がないため役員報酬制の導入(令和8年度より)

⑤ シルバー5か年計画の推進

⑥ 会員の拡大と就業開拓(特に女性会員の増加)

⑦ 新制度への対応(フリーランス新法・新契約方式・インボイスの今後)

共同・共助・自主・自立のシルバールの精神を忘れる事無く、課題解決に努力し、会員の皆様がシルバーに入っていて良かったと思えるよう総務委員会は活動していきます。

女性活動ワーキングチーム

委員長 金丸 英子

昨年の6月から理事をお受けし、それまでの事務局から案内される就業情報を眺める生活から一変し、シルバー人材センターの組織の理解、運営等の話し合いに参加と、これまではほとんど関心なかった事に携わり悪戦苦闘してきた一年でしたが、この度、総務委員会の下部組織である女性活動ワーキングチーム(WT)のリーダーをお受けする事になりました。

WTは、現在、女性のみのチームで主に女性会員の増強や女性会員向け就業先の開拓等を目的に女性懇談会の開催やイベントへの参加等を企画・実施する等の活動

を行ってまいりました。しかし、残念ながら女性会員の皆様にはまだまだ理解・周知されていないのではと感じております。

私自身、この一年間、先輩の女性委員の後から付いて歩き、これからはその先輩の立場になり不安一杯ですが、リーダーをお受けしたからには色々な事にチャレンジし、自分達にできる事から仲間の方々と相談しながら一つずつ前に進めていけたらと思っています。

会員皆様のご支援・ご協力のほど、よろしくお願ひします。

業務安全委員会

委員長 杉浦 茂樹

「業務安全委員会から一言」

昨年七月に安全管理委員会と業務委員会及び就業対策委員会を統合し一年が経過し、業務関連では、「おおるり」五月号にも掲載されており、既にご存じの方も多いかと思いますが、「放課後子ども教室安全管理班」が8番目の班として産声をあげました。班新設の目的は、連携意識のもと、互いに啓発し安全就業・顧客満足度・作業効率の向上であり、今後も家事援助、清掃等の班化も進めていきたいと考えております。

安全面については、残念ながら

昨年度は、一昨年度を上回る事故発生件数の結果となっております。当委員会は、昨年度も実施しました安全巡回を今年度も計画し、作業現場に向き安全意識を高め、頂上活動を継続していくこと、「おおるり」、HP等を通じて安全啓蒙活動を進めていきたいと考えております。

事故が発生したら、その再発防止に取り組み、その結果、管理面での対策がとられる場合も生じ、作業の効率が低下するなどの影響が生じることも考えられます。

事故の未然防止策は、なんといつてもご自身の体調管理、余裕を持った仕事の段取り、危険予知(KY)活動の実施等を、個々に徹底していただくことが一番の対策だと思います。

この時期であれば、熱中症対策(水分補給・適度な休憩をとる等)を確実に実施してください。仕事を無事終え、お客様から「いつもありがとうございます」と声をかけて頂けるように!!

ご安全に!



広報委員会

委員長 黒田 茂夫

今年度の広報委員会は認知度アップに向けて取り組んでまいります。広報と売上(収益)の関係を

算式で表すと『売上(収益)÷市場内顧客数×認知率(広報)×購入率×購入頻度×購入量×単価』となります。この認知率は皆様ご存知の通りシルバーのことを知っている割合です。

認知率向上のための第一はシルバーを知ってもらうために就業、ボランティア、お客様訪問などにおいて目に触れるよう広報PRを行います。具体的には車、自転車、マーク付き腕章、ビブス着用等により「シルバー君」を見て、知ってもらいます。第二は定番工口たわしに次ぐグッズを製作しシルバー販促ツールを増やします。第三はJR八王子OPAにおいて多くの市民の皆様の目に触れるようイベントを開催します。

定年は65歳から70歳に引上げられ、高齢者の働き方は自分の都合のいい時間に働きたいとシルバーを取り巻く環境も変化してきております。これまで培った施策の継続強化はもちろん認知率向上に努めてまいります。会員の皆様と共に広報活動に取り組んでまいります。ご支援ご協力をお願いいたします。

地域委員会

委員長 岩澤 孝嗣

地域委員会はセンター6地区の理事、地域委員で構成されており、

会員や地区の活性化や地域との連携の強化に向けて諸活動を進めています。

地区の活性化活動としては、地域連絡員による地区会議、会員による地区懇談会や会員研修会を開催して、地域連絡員の連携強化、会員の交流、情報の共有化などをはかっています。

また、昨年は5年振りに地域連絡員研修会を開催し、地域連絡員の任務・役割の確認、会員とのコミュニケーション力の向上について、多くの参加者の理解が得られましたので、地域班の更なる活性化が期待されます。

地域との連携活動では、各地域の市民センター祭りへの参加、また市施設の環境整備、浅川清掃、いちよう祭り清掃、八王子夢街道駅伝などのボランティアに参加し、センターのPRや新入会員の誘い活動を実施しています。

更に各地区の連携活動として、青少年対クリーン活動、大栗川や公園清掃、八王子流鏑馬ボランティアに参加しています。

本年度もこれらの地区の活性化活動や地域との連携活動を進めて参りますので、会員の皆様の積極的な参加をよろしくお願いたします。



シルバーさつき会 (ダバリング会)の今まで

西山 正子

「シルバーさつき会」は年齢的にも体力的にも、できる仕事に限られているが、いつまでの横のつながりを大切にしていきたい、という会員の皆様の意見から2023年5月26日に「ためし会」として開催し、16人の参加がありました。

第1回は、2023年11月1日に23人参加で行い、茶菓子で喉を潤しながら話がはずみました。第2回は2024年4月24日に20人の参加で童謡を歌い、じじいばば川柳で耳をほぐし、お茶の時間でおしゃべりをしてなごみ、ダーツ・トランプ・お手玉等で遊びました。

開催場所は檜原町のスカイヒルズ檜原2階で、会議室代・講演料・菓子代+αの合計を人数割で約300から500円で行っています。今後も3から4か月に一回の予定で行っていきたくておもっています。

「おおるり」に掲載があったら、しめた「遊べるぞ」と参加をしてくださいます。

次回は9月10日の予定です。



第二部 会員中心

※印刷の都合で二部に分かれていきます。

職種班だより

植木班 卯之原文康

(会員番号 80978)

「達成しよう!!傷害事故ゼロ
賠償事故ゼロ 苦情ゼロ」

植木班では昨今の事故増加を懸念して、今年度の活動方針に安全管理体制の充実・安全就業の遵守・事故防止対策の実施を検討、推進していくことを掲げ取り組んでおります。

その取組の一つとして植木委員会の中に安全作業指導班を設置し、そのメンバーが業務安全委員会毎月実施している安全・適正就業パトロールに同行し、就業現場の安全確認・作業チェック等を行っております。これまでも、植木作業前に全員で危険箇所の子エックなどは実施しておりますが、さらに親方による「作業安全指導及び確認書」(KYシート)の記入などで事故防止の意識付けを高める取組も始めました。

また、新たな取組として、万一事故が発生した場合は植木班の安全作業指導班と事故当事者で事故分析シートによる原因分析を行い、再発防止策を検討し、年6回発行している植木会報に事故分析情報、ヒヤリ・ハット体験事例、会員の安全就業事例、健

康管理情報等を掲載して安全就業意識の向上にも取り組んでいきたいと考えています。

除草班 本田 章一

(会員番号 12113)

「絶対無事故で たのしくお客
さんも 喜ぶ」

私は、38年間看護師として働きました。精神保健福祉士の国家資格も持っています。

私の実体験をもとに「心の健康」について語りたくと思います。

20年近く夜勤看護をしていた頃、自分が起きていないといけけない時間に寝ようになりました。看護課長にこのことがわかってしまい、病院の外に回されました。慣れない仕事が続く、夜も寝ながら汗をかくようになりました。【自分が危ない】と思いました。メンタルクリニックに行きました。不安神経症の診断を受け、不安を取る薬と睡眠薬を処方されました。月に1回外来に通いました。6ヶ月後、認知症の夜勤職場に戻り、精神は安定しました。看護の世界を離れた現在とても貴重な経験でした。

いま、除草班のリーダーとして「楽しく働こうや」です。



パソコン班 宮崎 周一

(会員番号 9247)

八王子シルバー人材センターの「パソコン班」は、今まで培ってきたITの知識や技術を持ったメンバー20数名で構成しております。

「おおるり」等にもスマートフォン(スマホ)やパソコン教室の開催案内を掲載して、受講生を募集しています。受講者には私たちが講師となり、「親切・丁寧・安心」をモットーに操作方法を教えており、多くの方に好評を得ています。このような活動は、会員の皆さんにも、センターに申し込まれた市民の皆さんにも、自宅訪問や、教室の開催等を実施しています。

さらに、市からの委託を受けて健康習慣支援ポイント「てくポ」の説明会の講師やホームページの作成、そしてパソコンを使った業務の支援なども行っており、活動の範囲を広げています。

スマホは、もはや生活の一部(情報入手・発信の手段として)となっており、上手に利用ができないと災害等での対処が遅れ、安全な暮らしに支障をきたす恐れも考えられます。

パソコン班は、まだまだ余力がありますのでパソコン・スマホ等でお困りのことがありましたら、ぜひパソコン班(事務局を通じて)までご連絡をお待ちしております。

筆耕班 野澤 久美子

(会員番号 11364)

「就業と心構え」

私は女性懇談会で筆耕班を知り、入会しました。筆耕班が主催する月一回の「すみれ書道教室」で実用書道を学んでおります。

先輩会員の方たちに教えて頂き、検定に合格すると高尾山の浄書、卒業証書の名入れ等就業の機会が得られます。

筆耕は、一般の書道と異なる書体もあり、美しいだけでなく、正しい文字を書かなくてはならず、先輩の講師陣からの指導を受けながら、参加されている皆さん、真剣に取り組んでおられます。

私も何度かの挑戦の末、検定に合格し、高尾山の浄書の機会を得る事ができました。

いざ、浄書の際に、体調不良を押して参加したところ普段のように筆が進まず、皆さんにご迷惑をおかけした苦い経験があります。高尾山の浄書は、真冬の早朝から行うため厳しい寒さに耐えきれませんでした。この経験を踏まえて、日頃の健康管理に十分に注意したいと思っております。

もちろん筆耕のほうも、技術向上にむけ、研鑽していきたいと思っております。

刃物研ぎ班 飯田 弘志

(会員番号 11509)

現在、私達刃物研ぎ班は、休班中の方を除き10名程で活動しております。夏号では安全対策が主との事で少し紹介させて頂きます。

寒い時期の頃、毎月利用させて頂いている施設の電源部の断線をして、大変ご迷惑をおかけしてしまいました。電動研磨機、強制温水器等電気の使い過ぎが原因です。以後はサーキットブレーカーを使用し無事にすこしてあります。

さて、刃物研ぎの方はというと、お客様の刃物等を受け付け、研ぎを済ませ、お返しする迄、極力安全の為、外部の人に見えないように扱っています。一連の作業中怪我の無いよう、正静の心で研ぐ様全員心掛けています。

また、見学される方には、距離を保つて見て頂いております。

リピーターの方も多く、皆さん自身の生きがいになっているようです。

表装班 向山 昭

(会員番号10930)

表装班の業務及び現状についてご紹介したいと思います。

現在、登録されている班員の人数は、4名です。仕事の内容は、障子・網戸・襖の張替です。

仕事の流れは、お客様から事務局へ仕事の依頼が入ると、事務局で「就業依頼書」を発行し、班員に送られてきます。

その依頼書を基に、お客様との下見の日程調整に始まり、下見をした後、見積書を作成し、お客様の「ご了解」頂き、これで受注となり、依頼品の引取りをして、平岡町の作業場まで持ち込み作業にかかります。作業を終えたらお客様のところへ納品で作業が完了です。

繁忙期(10月から12月中旬)については、協力しての作業でも少人数のため、対応できず、お客様のご要望に答えられない事もあります。この状況を打破するために班員の増員が不可欠となっております。これまでの班の入会条件を見直し、新たな班員を受け入れやすくする取組を進めております。

シルバー会員の皆様、表装班のお仕事に興味をお持ちの方は、ぜひ一度平岡作業場へのお見学をお待ちしております。事務局の窓口は、閑主事に労を取って頂いておりますので、よろしくお願ひします。



放課後子ども教室

安全管理班 野口 英男

(会員番号10566)

「おおるり」5月号で8番目の職種班として、放課後子ども教室安全管理班が産声をあげたことを紹介して頂いており、会員の皆さんも既にご存じの方が多いかと思いますが、本紙面をお借りして班の紹介と抱負を述べたいと思います。

班の名称とあり、我々の仕事は、市の教育委員会が子ども達に放課後の安全・安心な居場所を提供する事業の中で、その子ども達を見守る安全管理員として就業しています。

市内の約70校ある小学校のうち、40校が我々の就業先となっております。約240名の会員が学校毎に数名単位で就業しております。数年前から班の立ち上げ活動を試みておりましたが、「コロナ等の影響もあり活動が留まっておりますが、昨年6月から活動が再開され、班としての必要な規約・活動方針等を策定し、今年の4月に業務安全委員会を通じて理事会で承認していただきました。班の組織は、約600名が携わっております。配布班と同様な組織とし、ブロック制を取ることで連絡事項・事故対策等の情報共有・展開がこれまで以上に迅速かつ適切に行われるように目指していきたい

たいと考えております。

安全管理員の仕事は、子ども達の安全をきちんと見守ることはもちろんのことですが、我々職員も屋外就業を意識し、体調管理に気を付け、市からの信頼を損ねないように業務品質の維持・向上を職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

会員だより

中部地区 松本 外一

(会員番号8203)

「シルバー人材センターにお世話になった経緯(いきさつ)」

務めを辞めた後、生涯学習センター図書館で読書、あったかホールで泳ぎ、陵南公園で川の土手をサイクリングなど、3ヶ月もしたら雨が降りそうだから今日はやめ、昼食を食べたら行くテレビのドラマが始まったから明日にしよう、一日に12、13時間も見てだんだん家に居る様になり、つい「どこか行くとこ無いの。仕事でも見つけたら」と。新聞の折込み広告や求人募集に電話すると年齢を三つたるとたんだメ。シルバー人材センターに行つて登録して1ヶ月たつても何も言つてこないの、シルバー人材センターに顔を出してみた。何回もこちらへ顔を出して下さい。その後、何日かたつて近所の犬の散歩の仕事があるがやってみせんかかと電話がありやることに。その後

マンション管理の仕事を紹介され、現在は広報配布の仕事と何も解らぬうちに班長に地区委員・地域委員となり現在に至つています。

北部地区 井田 利行

(会員番号 11777)

「民謡一筋五十年!」

よく訛りは国の手形、民謡は心の故郷と申します。

民謡と出逢つたのは、幼い頃、母が朝の支度をしながら口ずさんでいた佐渡おけさです。

就職後、昭和48年に転勤になり、転勤先のサークルで先生に民謡の手ほどきを受けました。その後、昭和51年に霞が関に異動になり、そこにあつた日本民謡研究会で師匠に出会い本格的に習い始めました。また、隣の通産省等の官庁連合、全国郵政民謡連盟を先輩と結成することができました。各所で民謡大会が開催されていますが、コンクールで採点基準は一声二節(ふし)三姿勢です。声は天性のものがありませんが、努力次第で変わります。

令和2年に(財)日本民謡協会の教授に認定されましたので、これからは後の指導に当たりたいと思います。『母を偲び師を思いて五十年、今日も吾は民謡(うたい)おり』

西部地区 三浦 和春

(会員番号 11722)

「余生はシルバーで第一歩を」

私は、現在、地元の小学校で学校施設の開閉業務をしております。以前はこの業務はシルバーが担当していましたが、現在は他の一般企業に変わり、その会社の下での仕事になります。可能なことならばぜひ再びシルバーに担当してもらつてことを切望します。

私の勤務している小学校は八王子の市街地から遠く離れているためか、少子化が進み全校生徒併せて50名足らずのものです。そのことが返つて生徒と先生方との家族的な雰囲気があり、それに伴つて私達開放業務員もその雰囲気の中で楽しく、有意義にやらせてもらつております。

私の住むこの地域は、子供の少子化が進む一方で高齢化も進み現在、日本が抱える社会問題を端的に表しているような地域です。また、私はこの業務とは他に地域の老人会の役員をしている関係上、多くの高齢者との交流があります。その中でいかに高齢者が生きがいを持つて余生を生活していくには、社会とのつながりがとても大切なことではないかと思うのです。私のような年金暮らしには、昨今の物価高騰、年金受給の目減り等、将来に不安を感じ得ます。そのような不安解消のためにもシルバーでの交流はとても有意義ではないでしょうか。

シルバーでの仕事は多種・多様に渡つているので、最初はよかれと思つた就業でも中には合わないこともあると思います。そんな時はやめてまた別な仕事を探せばいいのではないのでしょうか。

シルバーでの仕事は気楽な気持ちで応募してみたら如何でしょうか。より良い充実した余生を送るには仕事をすることに充実感が味わえるのではないのでしょうか。

まずは、何かを始める第一歩を踏み出す決断が有意義な余生を送ることに繋がるのではないかと思います。

西南部地区 渡辺 健男

(会員番号 11352)

「広報の配布」

広報の配布に携わつてから4年半になる。八王子市の政策をダイレクトに市民に届ける重要な活動で、とても誇りに思つている、分けても新型コロナウイルスのワクチン接種が始まるころは、四日間の余裕はあるもの、一日でも早く届けなくては、と思つたものだ。

私は、数百の部数を区画ごとに30〜50部に小分けして自転車配つている。そして配布漏れが無いよう区画の部数を数えながら配つている。そうすると考え事をしつつかかり飛ばしてしまつてもすぐに気が付くからだ。

だが、時々住んでいる方と庭先で出会つて、手渡しするような時、「こんにちは、広報です」と挨拶すると、住民の方も「いつもご苦労様です」と応えてくれる。大変嬉しい瞬間なのだが、その瞬間に私の頭の中ではそれまでに配つた数字がきれいにリセットされる。まったく便利で情けない脳になつてしまつた。

東部地区 青山 良子

(会員番号 9542)

「Sシスターズ 楽しんでいきます」

東部地区を中心に就業中や委員会等で出会った方達8名の女性グループとして令和4年4月に「Sシスターズ」と称えて発足し、今日も女性会員の皆さんとのコミュニケーションとシルバール人材センターのPRを目標に活動しています。

公園清掃ボランティア、市民センター祭りのお手伝いなど屋外での活動や、東部交流室の二階をお借りして会員同士で教えを学ぶ同好会、手作り料理を持ち込んでのおしゃべりを楽しむ食事会、市民センター祭りでPR用に配る小物づくりの作成もしております。最近新しく増えた仲間達と体力維持のため月二回スローエアロビクスを始め、いい汗をかいています。

お時間のある方、私達の活動に興味をお持ちの方がおられましたらお気軽に東部交流室までお声をかけて下さい。お待ちしております。

東南部地区 阿野 明男

(会員番号 10547)

「挨拶と感謝の気持ち」

広報配布を始めて7年、常に心掛けているのが挨拶です。配布は各家庭のポストへ投函しますが、そのお宅の方が外におられる場合はまず挨拶、そして手渡し、その時「ご苦労様」と感謝の

一言を頂いた時はお互い気持ちのいいものです。

重い広報を抱え、玄関まで届けていただくヤマトドライバーの方に対しても「ご苦労様」と感謝の一言。

最近、メディアの発達で、世の中、会話が減少傾向にあります。また、皆さん、現役の頃より挨拶や感謝の気持ちがいよいよか。各就業先、地域活動やボランティア参加においてもお互いに挨拶を交わし合い意思疎通を図ることが大切です。今後、お世話になるかもしれない病院、施設では特に大事なこともかもしれません。

当たり前のことかもしれませんが、これからも常に挨拶と感謝の気持ちを忘れずにやっていきたいと思えます。

レクリエーション

「キヌタギキ春の散策」

森 光江

(会員番号 8108)

5月3日に青梅の塩船観音に十七名で行ってきました。この日は例大祭(火渡荒行)が行われており、外国の方もたくさん来ていて、とても混んでいました。つつじの見頃は少し過ぎていて色とりどりの花は、見られませんでした。がピンク系のつつじが「まだ咲いていますよ」とばかりに境内をピンク色で染めていました。

ベンチや日陰を探して班ごとにお弁

当を食べ、のんびりと過ごしたあと塩船平和観音をお参りし、本堂圓通閣で本尊千手観音の開扉があったので中に入り、ゆつくりと拝見する事が出来ました。

散策のあと全員で冷たい物で喉をうるおし、おしゃべりもして親睦を深めることができました。

ボランティア

「八王子夢街道駅伝ボランティア」

和田山 清

(会員番号 11815)

2月11日(日)八王子夢街道駅伝ボランティアへの参加は初めてのことで上手く出来るか心配でした。当日は山田小学校近くのことつ公園に8時15分に集合しました。集合したのは昨年ボランティア経験のある黒田会員と私の二人で、この時に作業内容を一緒に確認しながらの活動になりました。

作業内容は市の職員のお手伝いで、コース沿道ボランティア登録された方へ、集合した時に手袋・ホッカイロと黄色のビブスをお渡しし、終了時に黄色のビブスを回収するお仕事でした。私達が一番先に着き、しばらくしてから市役所の責任者が来られ、そのうちに沿道ボランティアの方々が集まり、手袋等を各人に渡します。

その後、市役所職員から内容説明を受け、それぞれの指定場所に着きました。二人一緒に行動したので安心してボランティア活動とランナーの応援も楽しく出来ました。

「東京マラソンボランティア」

三澤 宗好

(会員番号 9482)

八王子市シルバール会員になり広報の配布を始めて15年になります。現在は週3回他の仕事もしています。

カーブミラーの清掃・地域の清掃・浅川の清掃・東京マラソンのボランティアにも参加しました。地域の清掃では、小中学生の親子も参加していました。子ども達はその経験を通して地域活動の大切さを学んだのではないかと思います。

東京マラソンでは県外からも多くのボランティアが参加していました。そして、ランナー達の力強い走りを見る事ができました。東京都の大きなイベントにボランティアの一員として参加できたことを嬉しく思います。

高齢になると新しいことには尻込みしがちですが一歩踏み出し「何かに挑戦していく事」が大切だと思っています。

